

まちの話 だい

4月9日 | 新たな憩いの場が誕生

向島町に完成した「おひさま公園」で、開園を祝うオープニング式典を行いました。身近な公園として親しみを持ってほしいという思いから、地元住民の協力の下、愛称を決定しました。

園内には、災害対応型の3連トイレや非常用電源、かまどベンチなども整備。災害時には、一時避難地として使用できます。連休中は、新しい公園で遊ぶ家族連れでにぎわっていました。



4月18日 | 活発な新茶の商いを願う

新茶シーズンの幕開けを告げる新茶初取引式が行われ、早朝から生産者や茶商などの茶業関係者が集まりました。

鐘の合図で商談がスタートすると、買い手はお盆に広げられた新茶の出来栄を確かめ、売り手と互いにそろばんを弾いて価格を交渉。値が決まると、会場には両者が「シャン・シャン・シャン」と威勢良く行う手合わせの音が響きました。

トピックス

市民の健康維持をサポート



4月に第10期スポーツ推進委員の29人に委嘱状が交付され、2年間の活動が開始しました。

行政と地域の橋渡し役として、地域スポーツに関する連絡調整の役割を担います。委員会では「市民ひとり1スポーツ」を目標に、各種スポーツ教室の開催やスポーツ大会の企画運営など、ニュースポーツの普及活動を行います。各委員は今後、それぞれの地域を中心に活動を行っていきます。





4月13日 | かれんな花を楽しむ

千葉山ハイキングコース沿いに広がるどうだん原で、ドウダンツツジの花が春の見頃を迎え、ハイキング客を楽しませました。

どうだん原は、県下有数のドウダンツツジの群生地。白く小さな釣り鐘状の花が一帯で一斉に開花します。この日は、地域住民など多くの人々が訪れ、風に揺れるかれんな花を眺めて楽しみました。開花時期は、例年4月中旬から下旬頃です。

4月15日 | 市内茶業の繁栄を祈る

市茶業振興協会は、本年の茶業の繁栄と無病息災を祈願する献茶式を、大井神社で執り行いました。

式には、市内の茶業関係者が出席。新茶の献上では、市茶手揉保存会島田支部による手もみ新茶を山田実信支部長が神前に供えました。出席者は、順番に玉串をささげて、拝礼。山田支部長は、あいさつで「今年もおいしいお茶の生産に努めたい」と意気込みを語りました。



4月13日 | 島田大祭の開催を決定

島田大祭保存振興会の役員が、10月8日～10日の3日間で開催することを、市長に報告しました。

今年は、110回の節目の年。同振興会の杉山高夫会長は「コロナ禍で初開催となる。感染症対策と、各街が抱える課題を考慮し、これまで準備を進めてきた。参加者や地域の皆さんの協力をいただきながら、島田大祭を作り上げたい」と意気込みを語りました。